



AIDS(Acquired Immune Deficiency Syndrom) 1

<https://l-hospitalier.github.io>

2015.12

感染対策の基礎知識

#17

AIDSの歴史：1981年 最初の臨床例は UCLA からのカリニ肺炎のレポート。 いずれもホモの男 & Injection Drug User でニューヨーク居住歴があった(年内に 120名死亡)。

1982年 AIDS (後天性免疫不全症候群) と命名、5大陸で存在を確認。

1983年 Robert Gallo(NIH)が HIV ウイルスを発見 (ほぼ同時にパスツール研の Luc Montagnier も発見、1985) と発表される。 しかし 1989年シカゴ・トリビューンはギャロがモンタニエから送られた HIV のサンプルを自分が発見したものとして発表した不正を報道。 NIH と United States Office of Research Integrity (後の ORI: 米国研究公正局) はホフマン・ラ・ロッシュ社の協力を得てギャロの HIV はモンタニエから送られたものであると結論 (They concluded that the virus used in Gallo's lab had come from Montagnier's lab)。 ギャロ (現メリーランド大ボルチモア校) とモンタニエ

(Nobel Prize Laureate, 2008) はその後も協力。(モンタニエの) HIV が AIDS を発症すること確認したのはギャロの功績だが無視される。 郡司篤晃(厚生省生物製剤課長、私の指導教官でした) は 1982年知人(村上省三、女子医輸血部)を通じてエイズ感染の危険性を知り、1983年6月にエイズ研究班を召集したが血友病の薬害 AIDS を防げず。(Food & Drug Administration の Frances Kelsey は1年以上製薬業界の圧力

に耐え、49カ国で発売のサリドマイドの催奇形性データを要求、認可せず。全米で4000例と予想されるサリドマイド禍を防ぎ FDA の権威を高めた。一方オーストラリアの産科医 William McBride はサリドマイドの催奇形を初めて報告、後にデータ捏造で解雇)。 1985年 日本初の AIDS 感染例(薬害 AIDS)。

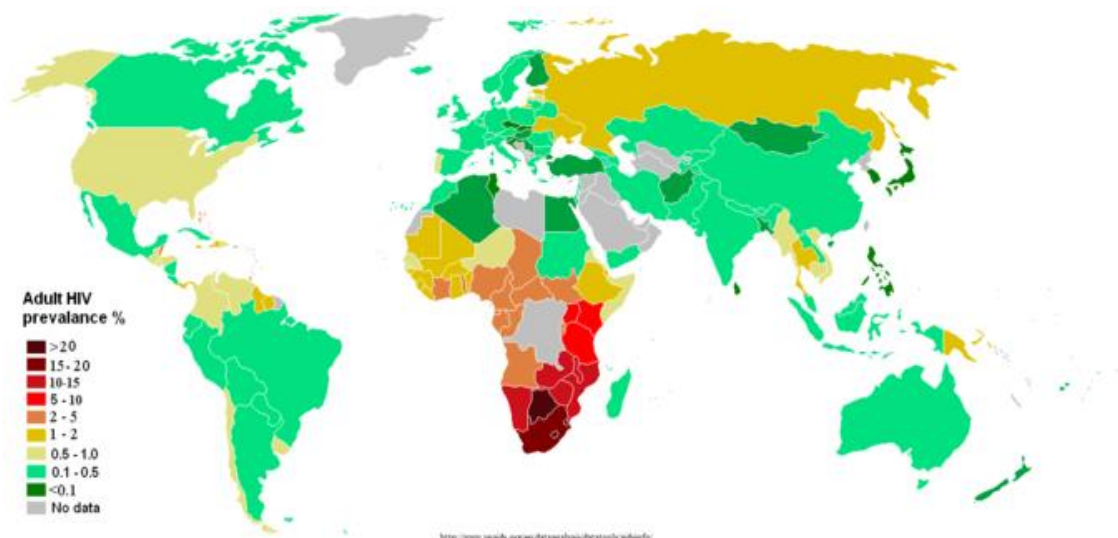
1989年 AIDS 予防法(記憶では、年齢性別のみ知事に報告)*。

診断法：HIV-1, -2 に対する抗体検査(スクリーニング)と NAT

(核酸増幅法) 検査がある。 米国では唾液を使う自己検査用キットを FDA が認可(2012、輸入可能)。 現在輸血用血液は HB, HC, HTLV-1, HIV, ヒトパルボ B19, 梅毒を検査、ウィンドウ期間(抗体検出可能になるまでの期間)は HB, HC で 30 日程度、HIV では 10 日前後。現在 HB, HC は 1-10 万単位の輸血に 1 回。HIV は現在まで 4 例。



← F ケルシーと J F K



* 感染症法 5 類、全数把握、年齢、性別、国籍を知事、特別区長に 7 日以内に届出。日本の罹患率(morbidity)は 10/10 万人程度、HIV 感染率はその倍(2 万人)。全世界で 3500 万人。